



学校法人 愛知大学

第4次基本構想

2016年4月

まえがき

1 第3次基本構想について

第3次基本構想(2010-2015年度)は、建学の精神を踏まえ「新たな知のトライアングルの形成」というコンセプトを前提、「中核」として作成された。このコンセプトのもとで各キャンパスの特徴づけは、①グローバル化時代における国際連携、環境大都市、情報発信をキーワードとした名古屋キャンパス、②地域社会・文化への貢献、地方再生をキーワードとする豊橋キャンパス、③高度専門職業人の養成、リカレント教育をキーワードとする車道キャンパスとされた。2013年末に改定された「第3次基本構想(改定版)」はこの間の状況の変化(特に会計専門職大学院の募集停止、大学院5研究科の車道キャンパスからの名古屋キャンパスへの移転の決定)を踏まえて、同上のコンセプトを見なおし、名古屋キャンパスと車道キャンパスを一体的にとらえる教学再編の方向(「名古屋ツイン・キャンパス」(仮称))を打ち出した。このような見直しにより、三キャンパスを拠点とすることを前提とした「知のトライアングル」の枠組み自体も改編された。その後、「名古屋ツイン・キャンパス」に向けての検討は進展せず今日に至っている。名古屋キャンパスおよび豊橋キャンパスを拠点として継承するとともに、車道キャンパスを如何に位置づけるかが課題である。

第3次基本構想は大学の中期的な重点課題を網羅的かつ詳細に記述している。大学の主要な機能について13の大項目、計63の小項目(改訂版では57項目)に整理し、さらに各小項目についてそれぞれ具体的な取組内容、到達目標、到達予定時期を明記している。その結果、全体で40ページ(改訂版では34ページ)からなる文書となっ

た。さて、第3次基本構想で規定された到達目標は到達予定時期までにどの程度達成されたのか。この点の詳細な検証は後日を期したいが、2015年度までに目標達成とされた項目(小項目全体の約75%)について、基本的に達成されたと評価できる項目と基本的に未達成と判断できる項目は以下のとおりである。

【基本的に達成した項目】 入学生の基礎学力測定、シラバス改革、三つのD,C,Aポリシーの作成、FD委員会の学習・教育支援センターへの統合、大学院経営学研究科の組織再編、就職支援事業の推進、教職課程センター活性化、学生ボランティア活動支援、蟹江グラウンド整備・運用体制の確立、地域連携協議体の設置、国際化推進会議の設置および国際化基本指針2015の策定、学費の改訂、負債率の早期改善、危機管理体制の強化、入学志願者数、受験生の学力レベル、一般入試と推薦入試の入学者比率、名古屋施設計画の具体化実施等

【基本的に未達成の項目】 名古屋ツイン・キャンパス事業案と豊橋キャンパス将来構想のとりまとめ、大学院改革、学習ポートフォリオの活用方法の検討・実施、研究体制・政策答申の具体化、国際研究機構の再編、協定先との国際共同研究、地域社会連携戦略の作成、70周年記念募金・寄付金目標額、国際交流の新体制設立、協定留学生受入数・派遣留学生数の増加、管理運営組織見直し、財務・法務部門の強化、大学教員の配置分野見直し等

目標を基本的に達成したと評価できる項目は多いが、他方で未達成項目も多い。もともと2015年度を超えて到達予定としていた項目も少なくない(全体の小項目の約20%)。従って、こうした項目は、基本的に第4次基本構想においても継続課題としなければならない。

2 第4次基本構想における基本的視点

第一に、大学の長期ビジョンを示し、それに向けての戦略構想として第4次基本構想を位置づける。長期ビジョンとしては2025年度の愛知大学像を示すこととし、その大学像を達成するために5年間(2016~2020年度)の中期的な基本構想を設定する。これまでの基本構想は長期的な目標ビジョンを必ずしも明示してこなかったが、多くの大学がしているように将来の長期的な目標ビジョンを示しつつ、中期的な基本構想を示す必要があると思われる。この点は第3次基本構想(改訂版)の「第3次基本構想の見直しにあたって」(7ページ)において、その検討の必要性が示されていた。今回において長期ビジョンは必要最小限の簡潔なものとする。

第二に、第3次基本構想で提起された「新たな知のトライアングル」および諸課題との関連から第4次基本構想を位置づける。「新たな知のトライアングル」については、それを継承する方向で中味の見直しを行っていく。その際に、車道キャンパスの位置づけ、三拠点のあいだの共通性と差異化について留意する。

共通性: 大学の建学の精神を体現する教育・研究、社会貢献の場。

差異化: 名古屋キャンパス: 法・経済・経営の教育、国際化教育と国際交流を重点とする。

豊橋キャンパス: 人文および地域文化・地域連携のための教育を重点とする。

車道キャンパス: 高度専門職教育、社会人教育、学部・大学院教育の分拠点等とする。

第三に、大学を取りまくこの間の環境の変化に対する主体的対応として第4次基本構想を位置づける。環境の変化は、①大学の入学者の大衆化(ユニバーサル化)、少子高齢化にともなう18歳人口の質

の変化と減少、②情報通信技術の発展とグローバル化の進展、③文部科学省等の政策動向(補助金を利用した大学の選別・拠点化方針、「教育の質の転換」、三つのポリシー、高大接続改革、大都市圏大学の定員超過率の厳格化、学校教育法の改正など)に示されている。第4次基本構想においては大学の自主性を踏まえつつこうした環境変化に対応しなければならない。とりわけ、入学定員増をともなう新学部・学科の設置認可申請に対しては大学財政との関連で厳しい選択が求められる。

第四に、基本構想としての性格から基本的な課題を簡潔に記述する方法をとる。従って、課題項目の数はできるかぎり集約化を図った。その結果、10の大項目、38の小項目とした。各項目の記述もできるかぎり簡潔にした。第3次基本構想では各小項目において取組内容、到達目標、到達予定時期という構成をとり、かなり詳細に記述していた(他方で、取組内容と到達目標の内容が重複している記述も散見される)。第4次基本構想は、上記の趣旨および時間の制約からこの方法をとらず、原則として取組内容のみを簡潔に記述することとした。到達予定時期は基本的に2020年度までとし、それより前に達成すべき項目については達成時期をできるだけ明記した。

I 将来の長期ビジョン(10年後の大学将来像)

1 中部私大のリーダーとしてのブランド大学、全国的にも高く評価される大学。

愛知大学は、多様な学生の知的成長を促し、社会に貢献するという目標に積極的にチャレンジし、社会から高く評価される大学、教育力、研究力、社会貢献で高い成果を生み出し高く評価される大学、そのようなブランド大学を目指して挑戦する。そのためには大学の教育、研究の質を高めることが必須である。その主要な方向・内容は以下のとおり。

2 建学の精神としての世界の平和と文化に貢献する人材、グローバル人材、地域に貢献する人材を育成する大学。

幅広い市民的教養を備えた人材、特にグローバル人材および地域に貢献する人材を育成することは本学のミッションであり、伝統である。グローバル化する今日の世界のなかで、大部分の学生が外国社会または地域社会と直接接し、学ぶ機会を提供する。それは時代の要請でもある。

3 複眼的視野から論理的に考える力、伝える力、知的意欲を基本にした学力および社会の変化に適応できる能力を育成する大学。

上記の本学のミッションを達成するには、学問分野の相違を超えて、自ら論理的に考える力、自分の言葉で伝える力、知的な好奇心・意欲などの基礎的な学力・能力を育成することが不可欠である。こうした基本的な学力は時代の変化を超えて通用する。

4 先端的研究を含めた研究の充実した大学。

上記のように人材・学力を育成する教育は研究と不可分であり、研究に支えられている。従って、活発で充実した研究とそのための条件を整備することは、教育の充実とあわせてブランド力の要素である。グローバルな課題やローカルな課題を含むさまざまな新しい研究課題に積極的に取り組む大学をめざす。

5 多様な学生が共に学び、社会のさまざまな人々と交流し、成長できる場を提供できる大学。

年齢、性別、国籍を超えて多様な目的関心をもつ学生が互いに親しく学び、研究する場、学生が課題意識を持ち、課題解決に取り組む、やり甲斐を感じ、自ら成長を感じ取れる場を提供する大学をめざす。

II 基本構想2020 (2016～2020年度)

1. 組織再編

- (1) 名古屋キャンパスの学部再編 ～第二期工事の完成とその後～
- (2) 豊橋キャンパスの教学組織の再編
- (3) 車道キャンパスの利活用
- (4) 学生定員・人員計画の見直し

2. 教育の充実深化

- (1) 次期カリキュラム改革 (2018年度実施) と教育改革組織の構築
- (2) 基礎的学習力の向上 (論理的思考力、発信力、意欲、課題発見・解決力)
- (3) 教育と地域社会との連携の推進
- (4) 大学院教育の充実と見直し
- (5) F Dの組織的推進
- (6) 教育の質保証、教育の達成度評価

3. 国際化教育の促進

- (1) 教育国際化方針の具体化と組織体制の整備
- (2) 国際交流の充実
- (3) 留学生派遣と受入の拡充
- (4) 留学生に対する支援

4. 研究推進

- (1) 戦略的研究を含む研究の促進、研究機関の連携強化
- (2) 研究支援・ネットワークの充実
- (3) 研究資金の合理的配分、外部の競争資金の獲得
- (4) 研究成果発表の促進

5. 地域社会との連携

- (1) 多様な社会連携の推進
- (2) 全学的な社会連携運営組織への再編
- (3) 同窓会・後援会との連携

6. 学生受入・支援

- (1) 入試A D政策
- (2) 学習・生活支援、奨学金
- (3) 就職支援
- (4) 卒業生との連携 (同窓会との連携)

7. 情報発信

- (1) 多様な媒体を利用した情報発信と広報
- (2) ブランド力の強化

8. ガバナンス・管理運営

- (1) ガバナンス体制の整備、意思決定・執行体制の見直し
- (2) 運営体制の見直し (I R体制、学内理事の分担、補佐体制、委員会組織等)
- (3) 管理人材の育成制度
- (4) 危機管理・コンプライアンス
- (5) 情報の公開・共有

9. 施設・設備

- (1) 設備投資計画
- (2) 資産の有効活用

10. 財務

- (1) 収入増加策、収支計画
- (2) 支出の合理的な配分
- (3) 資金積立および運用
- (4) A U Sへの対応